

## 第 64 回電子スピニンサイエンス学会年会開催に当たり

第 64 回電子スピニンサイエンス学会年会に多数ご参加いただき、年会実行委員会を代表して厚くお礼申し上げます。

研究活動や学術討論の現場は、いわゆる”コロナ禍”から脱却し、対面とオンライン双方のツールを駆使した新しいスタイルが生まれつつある一方で、高校・大学においてコロナを経験した世代が大学・大学院へ進学し、その影響を少なからず感じる昨今です。群馬県桐生市は小さな街で皆様には交通や宿泊などでご不便をおかけしていることと思いますが、本年会を第 63 回福井年会に統いて、対面発表形式にて懇親会を含めた現地開催させていただくことができることを大変嬉しく思っております。

本年会では、基調講演として、IES 副会長で韓国基礎科学研究所 (KBSI) の Dr. Sun Hee Kim 博士をお招きして先端的 ESR 計測による生体系の構造や触媒反応メカニズムの解明についてご講演いただきます。特に多周波マイクロ波を用いた ENDOR, ESSEM, DEER などの種々の手法は生体系のみならず材料開発等の分野でも他の計測法ではできない進展を可能にします。また、2 つのミニシンポジウムを企画いたしました。一つは「Spin and Quantum Aspects of Biological Systems」と題した English Session です。生体系への電子スピニンサイエンスの Application は歴史があり、ESR そのものが量子状態間の遷移です。しかし、ここにさらに量子状態間の混合や時間という概念が加わると、これまで見ることのできなかった構造やダイナミクスが明らかとなってきます。もう一つは「スピニンと計算化学—磁気パラメータおよびゆらぎへの実践的アプローチ」と題した、計算化学をテーマにした企画です。最近のコンピューターおよび汎用プログラムの進展により、種々の理論をベースにした電子状態計算や磁気パラメータの計算が可能になってきました。本企画では実験科学者の立場からチュートリアル的要素も含め、計算化学がどのように使えるのか、ご講演をお願いしました。また理論の専門家からも電子スピニンを含む系の記述と創造が今どこまで可能なのかご講演をいただきます。さらに量子化学計算のみでなく揺らぎを含む系について分子動力学 MD 計算の立場からの講演が続きます。

本年会では、2 件の学会賞講演、1 件の学術賞講演、1 件の奨励賞を予定しております。特に学術賞は一昨年から設けられた賞で、気鋭の研究者による受賞講演を是非聴講していただきたく存じます。また、年会で恒例となっております優秀発表賞とポスター賞を用意しております。活発な議論で若手研究者の成長をご支援していただけることを願っております。

年会では、上で紹介した講演のほかに口頭講演 20 分枠 23 件、同 12 分枠 13 件、合計 47 件の口頭講演を予定しております。またポスター講演 80 件を予定しております。特にポスター賞にエントリーされていない一般ポスターは口頭講演会場近くに配置させていただき、

ポスター発表以外の時間も議論や情報交換の場にしていただければ幸いでございます。大いに討論して、皆様のご研究の発展につなげていただけますと幸いです。

今回、3日目の午後には講演を配置なしのプログラムを作成させていただきました。桐生には織物の町としての遺産が随所にございます。ご参加の皆様には、もし、お時間が許すようでしたらぜひ近隣の散策でひと時をお過ごしの上、帰路についていただければと思います。最後になりましたが、本年会への皆様のご参加に感謝申し上げると共に、本学会と皆様の一层の御発展を願っております。

末筆ながら、本年会の準備に例年よりも多くの実行委員の方々をはじめ、ほんとうに多くの方々にご尽力いただきました。そしてご協賛いただいた企業等の皆様方に深く感謝申し上げます。

浅野 素子

第64回電子スピンサイエンス学会年会実行委員長